

單級
小學
尋常日本讀本
卷三

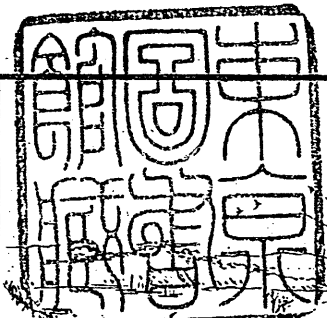
檢定合格本

K1208
54.2
3

三宅米吉
関渡邊政吉著

單級
小學尋常日本讀本
卷三

東京 金港堂書籍會社



○アサヒ カラス

アサヒ ノ ノボルヲ

ハイマヤマノア

ヨリ ノボレリ。

ヲ ミヨ、カラス ハ

ヒトザト ニキタリ

テ、アサ子 ノ ヒトヲ ヨビオコセリ。

カラス ハ アサ ハヤク オキイツル トリ



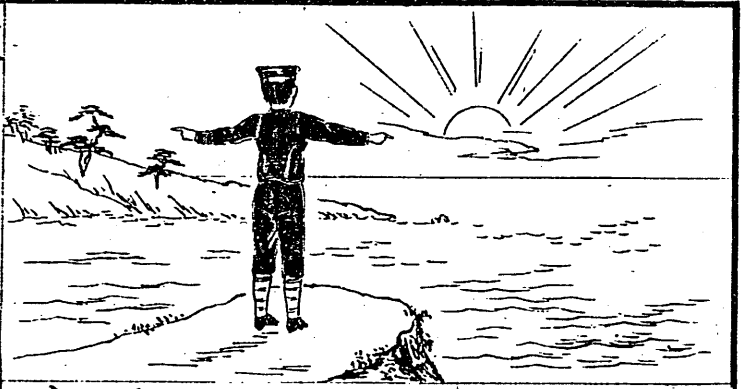
ナリ。

カラスハヒルノウチハヒトザトニキ
タリテエヲモトメユフガタハモリニ
カヘリテ子グラニイル。

○アサ ユフ

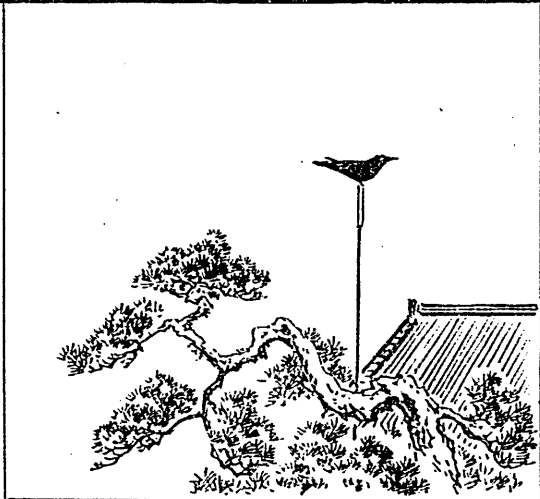
日ハヒガシヨリ出デテニシニ入ル
ヒガシニムカヒテタツトキハ右ハ
ミナミニシテ左ハ北ナリ。

入 右 左



日ノ出ヅルコロヲアサ
トイヒ、日ノ入ルコロヲ
ユフトイフ。
日ノ出デテヨリ日ノ
入ルマデヲヒルトイヒ
日ノ入リテヨリ日ノ
出ヅルマデヲヨルト
イフ。

東 南 北



○かざみ

みよ、まつの木の上にかざみあり。

かざみはかぜのふくむきをみるだりぐなり。

北よりかぜのふくときは、かざみは南のはうをさし、南よりかぜのふ

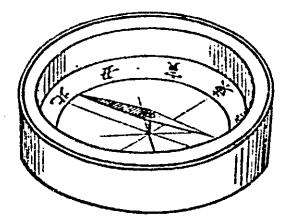
くときは、かざみは北のはうをさす。

かざみはいま東のはうをさせり、さればかぜはいまいづれのはうよりふきくるか。

○ドローやく

これはドローやくなり、ドローやくはうつはの中ほどにはしらをとた

西方



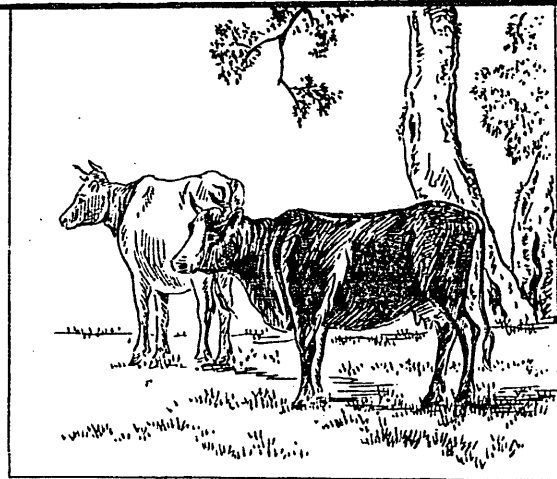
北とかける方をはりのさきにあはすれば、東西南の方角は、せん

て、ちの上にてつのはりをたけり。ド、やくのはりは、つねに北の方をさせるが、ゆゑ、うつはをまはして、

ド、やくは方角を、しるなり。ぐなれば、大工は、これをみて、いへのむきを、さため、せんごうは、これによりて、ふねのむきを、しる。

○ウシ

ウシハ、カラダ、オホキク、シテ、チカラ、ツヨキ、ケモノ、ナリ。
ウシハ、ウマレ、ツキ、オトナシケレ、ドモ



トイフ。ヒトハギウニウヲノミ
ギウニクヲクラフ。

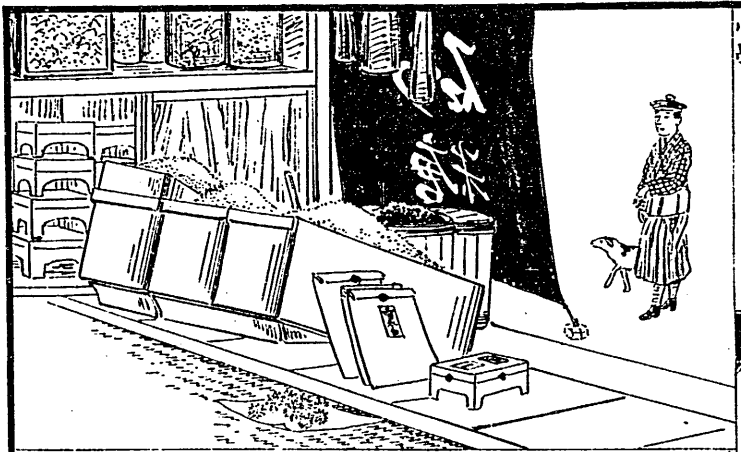
イカルトキハアレ
マハリテ、ヒトニキズ
ツクルコトアリ。
ウシノチチヲギ
ウニウトイヒ、ウシ
ノニクヲギウニク

牛草食

○牛ウマ

牛ハ草ヲ食ヒ、ウマモ草ヲ食フ。
牛ハアユムコトオソケレドモ、ウマハ
カケルコトスミヤカナリ。
牛ハモノニオドロカザレドモ、ウマハ
モノニオドロキヤスシ。
牛トウマトハニモツヲハコビ、
マダタハタノ土ヲオコスニツカハル。

黒



○さたう
 これ は さたうやの
 みせなり。
 みせにはいろいろの
 さたう あり、黒くく
 て土のゴトきと黒
 ざたうといひ、白くく
 てゆきのゴトきと

白

ゆき白といふ、白ざたうにゆき
 まのしなあり、ちやいろのさたう
 を中白といふ。
 さたうやにては、さたうのほかに
 こんぷいたう、こぼりざたう、なごを
 うる、これらはみなさたうのう
 くりたるものなり。

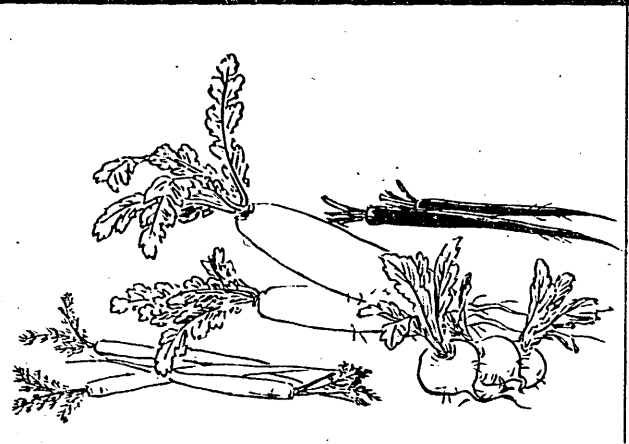
○こぼり

生 甘 品

うみの水とくみとりて、はまづにまき
たけば、ほどつて白きすなつぶのこご
きものを生ず、この白きすなつぶ
のこごきものをかきあつめてごみ
とすなとさるときは、うほと
なり。

うほは、うほからく、さたがうは、甘く、うほ
とさたがりの二品は、食ものれがうり

にかくぶからざるものなり。



○ヤサイ

- ダイコン
- ハ子
- フトクシ
- テ
- シロク
- ニンジン
- ハ子
- ホソク
- シテ
- アカシ
- カブ
- ハ子
- マロク
- シテ
- シロク
- ゴバウ
- ハ子
- ホソク
- シテ
- クロシ

ダイコン ニンジン カブ ゴバウ ナドヲヤ
 サイト イブ ヤサイ ハ ニテ シヨクシマ
 タ シホツケ ニシテ シヨクス。
 ダイコン ニンジン カブ ノ子 ハイヅレモ
 アマミ アリ、ナカニモ ニンジン ハモツト
 モアマシ。

○食物

人ノ食物トナルモノハ シユジユア

米 其 物

レドモ、其ノイノチヲツナグニカクベ
 カラザルモノハ、コクモツニクル井ヤサイ
 ノ三ツナリ。
 コクモツトハ米ムギナドヲイヒ、ニク
 ル井トハウヲトリケモノナドノニ
 クヲイヒ、ヤサイトハイモハスナドヲ
 イフ。
 コクモツハメシニタキテ食シ、ニクル井

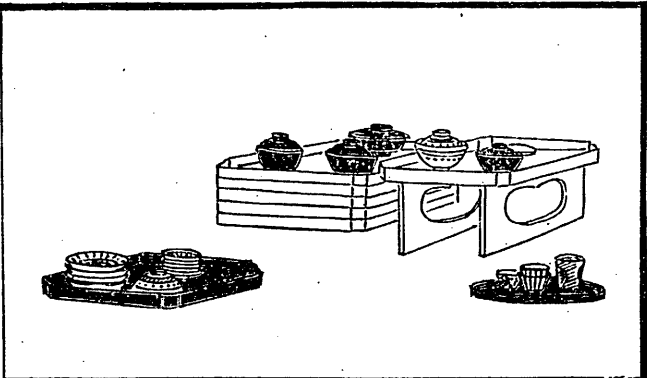
ハニマタハアブリテ食ス。

ナンデハウチトリケモノノウチ、人ノ食物トナルモノノナヲシレルカ。

○皿ちやわん

皿は食物をもるうつはにて、ぜんは皿ちやわんなどをのするだいなり。ちやわんにはちやをのむに用ふるものところ、めしをもるに用ふるものところあり。

又云用



わんは食物をもるうつはなり、しるをもるをしるわんといひ、にめをもるをひらわんといふ。又すひものをもるものあり、これをすひものわんと云ふ。

○水

飲み物 食ひ物の中、ことにたいせつな

飲 飯 汁 作

るものは水なり、水は飯をたき、
汁をにるにも用ひ、又、しやうゆを作
り、さけを作るにも用ふ。
人はつねにはひや水を飲まず、され
どもゆちやに水(を)用ふることは
まことにたびたぐ。
水はたせつのもものなり、されどひや水を
れよく飲めば、はら(を)いためやまい(を)た(を)す。



ヒトハ ヤマヒ ナク シテ カラダ チヤウ
ブナル トキ ハ ツ子 ニ ゲンキ ヨキ モノ ナリ。
ノ ミク ヒ ヲ ツ ツ シ ミ カラダ ノ ウンドウ
ヲ ツ ト ム レ バ、 カラダ マス マス チヤウブニ

○チヤウブノヒトトナレ
コノコドモハカラダ
コエフトリ、カホイロツ
ヤヨクシテゲンキヨシ

ナリテ、ツ子ニココチヨキモノナリ。
ナシチラノミクヒヲツツシミ、ホドヨクウ
シドウシテ、チヤウブノ人トナルベシ。

○ケイレイ

父母トハ、カナラズ父母ニアイサツヲナスベシ。
外ヘユクトキト、内ヘカヘリタルトキ
ハカナラズ父母ニレイヲオコナフベシ、又
アサオキタルトキト、ヨルイヌルトキト
外ヘユクトキト、内ヘカヘリタルトキ

内外

テシサマヲハジメタテマツリ、タフトキ人
人ニハ、テイ子イニケイレイヲオコナ
フベシ。
キヤウダイハウイウシシル井ナドノ人
ニハ、オノオノソノ人ノシナニヨリテ
ケイレイヲオコナフベシ。

○たやかうから

見よ、女の子は母のかたをたたき

見 女 子 男



男の子はうろばんを
とりて、父のてつだひ
をなせり。
母が一日たちはたらきて
くたびれたるに、より、女
の子は母をなぐさめ
んとて、其のかたをた
たけるならん。

父はいまあきなひをしまひて、うりあ
げのかんぢやうをなすところなれば、
男の子は父をたすけんとして、うろばん
をとれるならん。

○兄弟のまどはり

兄は弟をあはれみ、弟は兄をうや
まひて、中よくあうぶづ、たがひにわが
ままをいひはり、けんくわこうらんをな

兄弟

姊妹



すべからず。
 姉は妹をあい、妹は
 姉をうやまひて、むつま
 しくまどはるべし。
 兄弟姊妹、むつまじくま
 どはりて、もろともにな
 り、かうがうをつくる
 は、なによりのおまじこ

となりとゝるべし。

○イへ

ヒトノスムタメニツクリタルモノヲ
 イヘトイフ。
 イヘハドダイヲスエ、ハシヲタテ、ム
 子ヲアゲ、ケタヲワタシ、ヤ子ヲフキ、
 カベヲヌリテツクル。
 イヘノウチニハゲンクワン井マザシキ

ダイドコロナドヲマウケ、ゲシクワンダイ
ドコロニハイタヲハリ、井マガシキニ
ハタタミヲシク。

イヘノマヘニハモンヲタテマハリニハカ
キヲコシラヘニハニハキトクサトヲウウ。

○町村

家ノアマダアルト召ヲ村又ハ町ト云フ。
村ニハヒヤクシヤウノ家多クシテ、ア

家 村 町 多 少

キウドノ家ハ少シ。

町ニハアキウドノ家多クシテ、ヒヤク
シヤウノ家ハマレナリ。

村ハイヘカズ少クシテサビシケレドモ、
町ハイヘカズ多クシテニギヤカナリ。

ヒヤクシヤウハ町ニユキテ物ヲウリ、又
物ヲカフ、アキウドハヒヤクシヤウニ物
ヲウリ、又ヒヤクシヤウノ物ヲカフ。

客 示 店 來



○店
 品物をならべたきて、客に示すところを店と云ふ。あきうど、店に品物をかざりて、客の來るをまち、客は店に至りて、品物をかふ。店にはのれんをかき

至

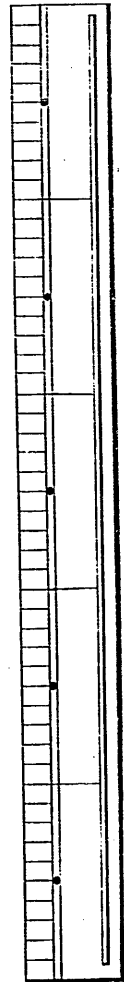
て、其の家のなまへをあらはす、又かんばんをかかげて、あきをふづき、品物をあらはすもあり。

なんぢらこの家ののれんを見よ。

○尺

物の長さをはかるものを尺と云ふ。

ここに急がける尺は長さ五寸あり、



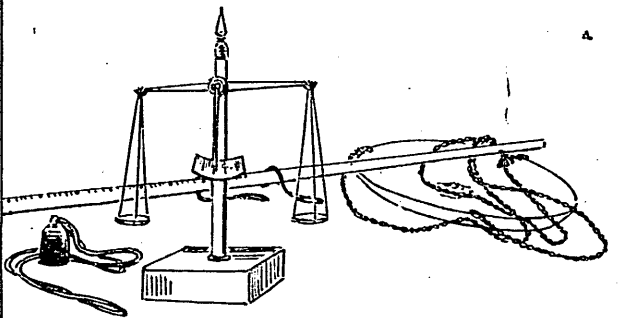
長 寸 尺

この尺を二つあはせたる長さを一尺と云ふ。

分 丈

尺は一尺をもてもととす、これを十に分ちたる長さを一寸と云ひ、一寸を十に分ちたる長さを一分と云ふ、又一尺を十あつめたる長さを

一丈と云ふ。



○ハカリ

モノノオモサヲハカルダウグヲハカリトイフ。
ハカリニテモノヲハカルニハ、サラニモノヲノセ、サヲニフンド

ウヲカケ、サヲノメヲカゾヘテ、モノ
ノオモサヲシルナリ。
ナンヂハ、サタウヤクスリヤニテ、ハカリヲ
モチフルヲミシコトアラシ、サタウヤノ
ハカリハ、オホキクシテ、クスリヤノハ
カリハ、チヒサシ。

○綿

綿ハ草ノミヨリ取りタルモノニ

綿取糸之



テ、其ノ色白シ。

綿ハ衣服ノアヒダニ

モ入レ、又ハツムギテ

糸トモナス。

衣服ノアヒダニ入ルル

モノヲシキワタト云フ、

シキワタハウスクシテ、タケ長クハバセマシ。

ツムギタル糸ハハタニテオリ、衣服ニ

作ル之を木綿ノ衣服ト云フ。

カヒコヨリ取りタル綿ヲマワタト云

フ、マワタハヤハラカニシテスコブル

ツヨシ。

○衣服

あつささむさをーのぐためにからだ
にまとふものを衣服と云ふ。

衣服には裏のつきたるものあり、裏

裏と表とのあひだにわたを 入れたる

表ものあり、又表のみにて裏をつげざ

単衣るものあり、裏のなきを単衣と云

ひ、裏のつきたるを あはせと云ひ、裏

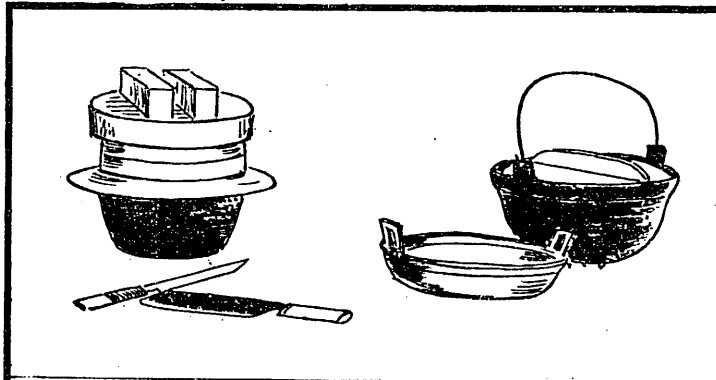
と表とのあひだにわたを 入れたる

をわた入れと云ふ。

○鍋釜

やさいと肉とは鍋にて煮、飯は

肉鍋釜煮小刀鐵



釜にてかゝる。
 はうちやうはやさい肉
 るのをきざむに用ひ
 小刀はかつをぶしをけ
 づり、又かみをきるに
 用ふ。
 鍋釜はうちやう小刀の
 るのはすべて鐵にて作

る。鍋釜は鐵をとがしいがたに入
 れて作り、はうちやう小刀は鐵を
 きたへて作る。鍋釜を作る人をいも
 のくと云ひ、はうちやう小刀を作る
 人をかぢやと云ふ。

○スミタキギ

シヨクモツヲニヤキスルニハスミマ
 タハタキギヲモチフ、タキギハキヲ

キリテ オナジ ナガサト ナシ、ワリテカ
ワカシタルモノナリ。

スミハキヲオナジ ナガサニキリカ
マドニイレテムシヤキニシタルモノ
ナリ。

タキギニハカタギトザフキトアリ。
スミニハカタズミトドガマズミトアリ。

○材木

家ヲタツルニモツトモ入用ナル材木
ハ松杉ヒノキノル井ナリ。

材木 家ノ柱ニハ杉又ハヒノキヲ用
ヒハリドダイニハ松ヲ用フ。

杉 ヲカハ松板ニテハリ、テンジヤウシタ
ミハ杉板ニテハル。

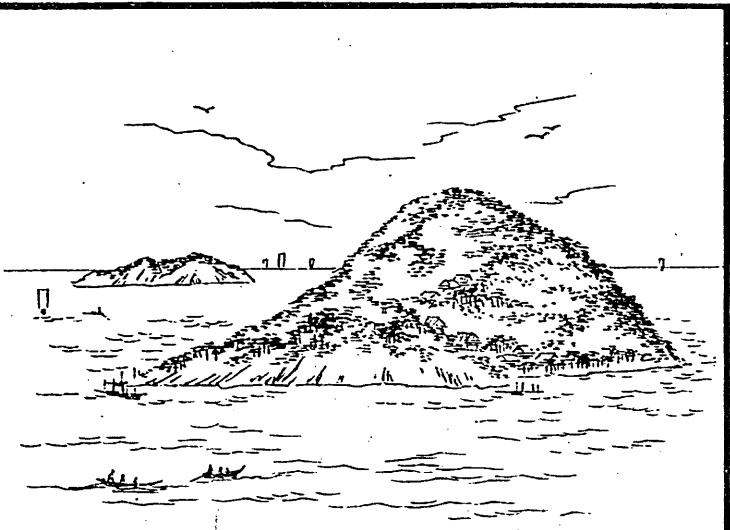
板 材木ハマロキヲマルタト云ヒ、四角ニ
柱 角ヲトレルヲ角物ト云ヒ、ウスクヒ

キワリタルヲ板ト云フ。

○嶋

四方水にかこまれたる土地を嶋と云ふ。嶋には大きなるもあり、小さきもあり、海の中には大きなる嶋あり、土地の中には小さき嶋あり、人は大きなる嶋に家をかまへ、たはたをつくり、又しやうばいとなす。

池 此 國



海ははなはだひろき
みづやれば、其の中
は多くの嶋あり、
われらのすめる此の
日本國も、また海
中の大きなる嶋なり。
○やま
ぢめん の たかくいで



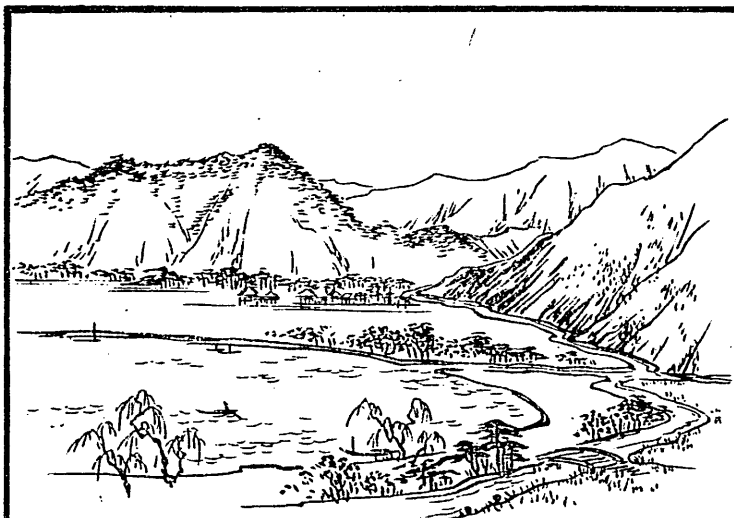
たるものをやまといふ
 やまにはひくきあり
 たかきあり。
 なんぢはふぐのやまを
 くれりや。
 ふぐのやまはにつぼん
 だいちのたかきやまにして、そのかたち
 ちやうどすりばちをふせたるがごとし、ゆ

ゑにこのやまはいづれのはうよりながむ
 るも、たいていはなごやうにみゆるなり。

○谷川

山ト山トノアビダヲ谷ト云フ、山
 ハ高ク谷ハ低シ、谷ヨリワキイデテ低
 キ地ニナガレクダル、水ヲ川ト云フ、
 川ハオヒオヒニ低キ地ニナガレユキ
 テツビニ海ニ入ル。

湖 沼 低 高 谷



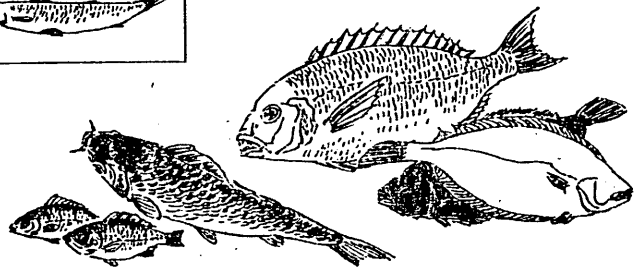
地面ノクボミタルトコ
 口ニ水ノタマレルモノ
 ヲ池ト云フ、其ノ大
 キナルハ沼又ハ湖
 ト云フ。
 池ハ人ノホリタルモ
 ノニシテ、沼ト湖ト
 ハシゼンニデキタルモ

小學書堂日本讀本

卷三

全洲堂書籍會社

尾 魚



ノナリ。
 ○魚
 魚ハ水ニスムモノニ
 テ、其ノカタチフ子ニニ
 タリ。
 フ子ハカイニテコギ、カ
 チニテムキヲトル。
 魚ハヒレニテオヨギ尾

單級 海魚日本讀本

卷三

廿三

全洲堂書籍會社

河 紅 光

ニテムキヲトル。
魚ニハ河ニスムモアリ、又海ニス
ムモアリ。
コヒフナノル井ハ河ニスミ、夕ヒヒラ
メノル井ハ海ニスム、コヒフナハセ
黒クシテ、ハラハキシイロナリ、夕ヒハ
其ノ色紅クシテ、光リアリ、ヒラメハ
セ黒クシテ、ハラ白シ。

貝 住 枚



貝のるおは皆からをもてり、からに

○貝

貝は、一ほみづに住むもの
と、まみづに住むもの
とあり、あはびはまぐりの
るおは、一ほみづに住み、
一ドみたに、一のるお
は、まみづに住む。

皆 身 一枚のものゝ二枚のものゝありは
まぐりは二枚のからをもち、たぐりは
一枚のからをもち、すべて貝るおは、
ものにならるることあれば、身をち
ぢめてからの中にかくる。

○海のくさ

汝等は海中に草あるを、知れりや。
海中にはいろいろの草ありて、みづろ

汝等 所知 若 炙



こ又はかくれはに
つけり。
汝等の汁のみと
して食ふ所のわか
めは海の草なり、
又汝等の煮て食ひ、
若くは炙りて食
ふ所のこんぶあさく

單級 遊海草木實木

卷三

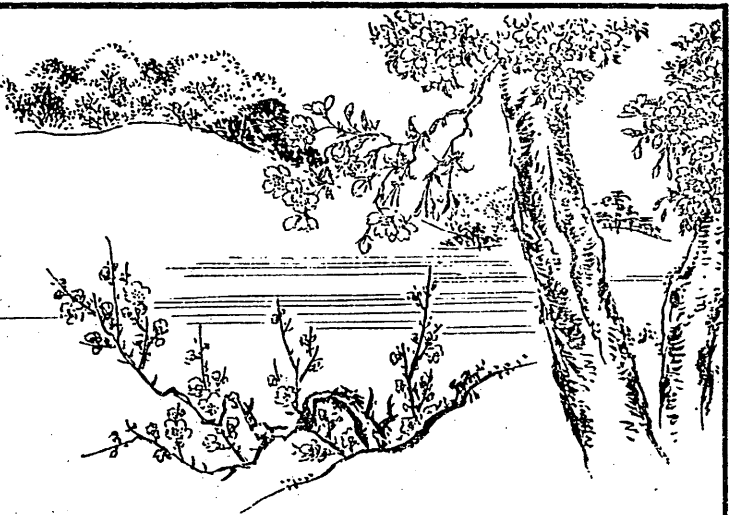
五

全書三言新會社

さのりのるおも皆海の草なり。
かんでんこころてんは汝等食せしこと
あらん、此等も皆海の草よりつく
りたるものなり。

○ウメ サクラ

ウメハハルハナサクモノニテソノハ
ナニハシロキモアリアカキモアリア
カキウメハウツクシクシロキウメハ



ニホヒヨシ。

サクラノハナニハ
ヒトヘアリヤヘアリ
ヒトヘハハヤクサキヤ
ヘハオソクヒラク。
ハナノニホヒヨキハ
ウメニマサルモノオ
クハナノウツクシキ

小學讀本 卷之三 神社

ハ、サクラニマサルモノナシ。

○天神ノ社

コレハ神ノ社ナリ。

社ノワキニウメバヤシアリ。

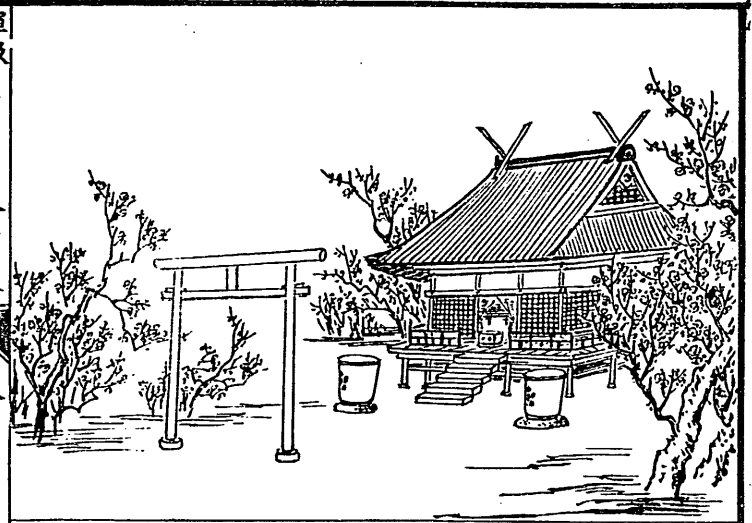
コノ社ハ何ノ社ナルカ。

コレハ天神サマノ社ナラン。

天神サマハムカシノ人ニテ、姓名ヲ

スガハラノミチザ子トイヘリ。

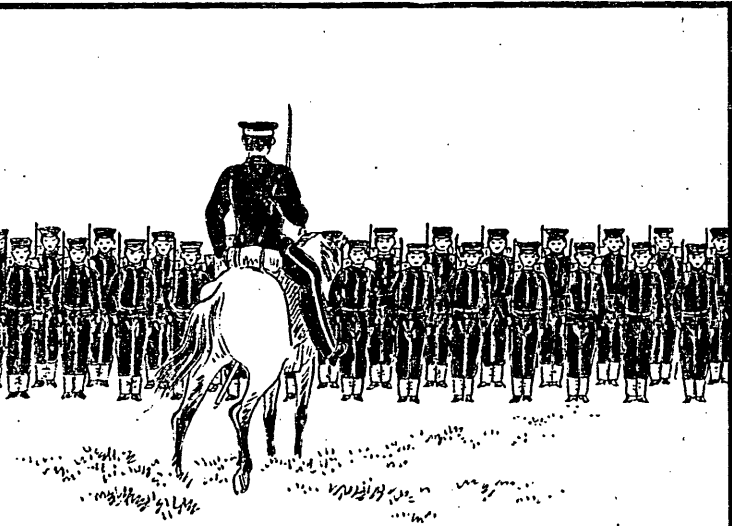
神 社 何 神 姓 名



ミチザ子ハガクモン人
ニスグレ、オコナヒタ
ダシキ人ナリシガ
ムジツノツミヲカ
ウマリテトホキ國へ
シリゾケラレタリ、サ
レドミチザ子ハ天
子サマヲウラムルコ

單級下等小學校用書 卷之三 神社

正立手足歩止



軍級 海軍日誌 第八

巻三

六

全海軍日誌 第八

て、右の手にけん
をもてり。
くわんひとたびが
うれいをかくれば
あまたのへいたいは
足をろろへて、いづ
よに歩ミダシ又が
うれいをくたせば

コロスコシモナクカヘリテ 天子サマヲ
シタハレタリ。
ミチガ子 シシタルノチソノツミナキコト
ワカリ ツヒニ神ニマツラレタリ。

○へいたい

此の急はへいたいのてうれんをする
所なりへいたいはとつはうをになひて
正しく立ちくわんはうまにのり

小學海軍日誌

巻三

全海軍日誌 第八

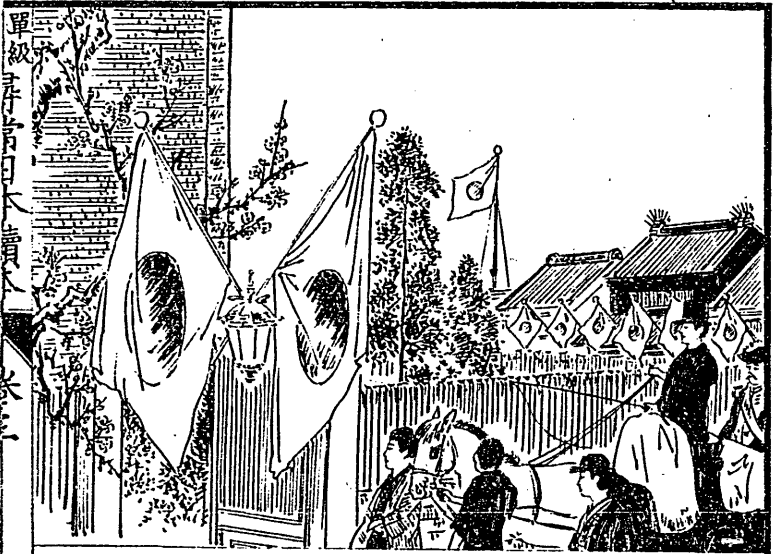
いつしよに立ち止る、其のはやきことは
まことに目をたどるかすばかりなり。

○きげんせつ

けふは二月十一日にて、きげんせつなり、日
本中の人人は、門に日の丸のはた
をかかげ、かげふとやすみて、いづれもわ
が國のはんどやうをいはへり。

汝はきげんせつのことを知れりや。

門 丸 我 國 行 末



きげんせつとは、我
が國だいいちだいの
天子さまなり、神
武天皇が、はじめて
天子さまのみくらお
につかせられたるめ
でたき日にあたる
日なり。

單級寺宇野口不道不

六一

九

全日本書院編輯會社

されば我我此の日にたいて神武天皇のごおんをたてつたてまつり、又我が國の行く末ながくはんだやうせんことをいのるなり。

明治廿五年十二月一日印
 同廿五年十二月六日出
 同廿六年九月三日印
 同廿六年九月七日改正再版發行

定價金七錢

版權所有

發行者 代表者 印刷者 印刷所 大賣捌

金港堂書籍會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

原亮三郎
東京市下谷區龍泉寺町四百十番地

金港堂書籍會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

日置九郎
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

金港堂書籍會社
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

金港堂
大阪市東區南本町四丁目

金港堂
仙臺市國分町五丁目

單級
小學
尋常日本讀本
卷四

檢定合格本

K120,8
51,2
4